

香川県の具体的移住行政

11. 香川県南米移住高齢者招へい事業

1983年(昭和58年)7月30、31日の2日間、ブラジル連邦共和国、サンパウロ市内の香川県人会館で、香川県ブラジル移住70周年記念式典が盛大に意義深く挙行された。

香川県から、ブラジル共和国への移住は、1913年(大正2年)8月28日、帝国丸でサントス港に到着した6家族28人の移住が最初で、今日約8,000名の香川県人が、南米各国(ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー)で活躍し、移住先国の発展に貢献している。

当初に移住した人は、移住船で横浜港を出航し、西廻りの航海で、40日余りの船旅を続けてサントス港に到着。ここから貨車に揺られて、原野密林に入る。ここに掘立小屋を建て、来る日も来る日も斧を持って大木を倒し、これを焼いて焼畑とし、これを耕して作物を栽培し、南米各地に今日の様な近代農業を築き上げて行き、「日系移住者のブラジル農業に対する貢献度は、極めて大きい」という評価を受けている。

また、移住者は、祖国日本の「大和魂」「日本精神」を堅持し、明治以来培われてきた道徳を守り、常に勤勉で礼儀正しく、正直で義理人情に厚く、移住先国の人々に親しまれて高く評価され、尊敬されて来た。

殊に、移住者は、子弟の教育に格別熱心であった。掘立小屋のいろいろの媒で黒くなった壁を黒板代わりにして勉強を教えた話もある。特に学校教育には熱心で、子弟も向学心が旺盛で良く学び、ブラジル社会で日系人の優秀性を大いに発揮して活躍し、移住先国の発展に大きく貢献している。

このように、移住者は、移住先国の発展に貢献するとともに、祖国日本と移住先国の友好親善、相互理解にも大いに尽くしてきた。移住してから今日まで苦勞を続けて来たその努力は、到底筆舌に尽くせないことと思う。

香川県は、移住して30年間一度も祖国故郷を訪問したことの無い移住高齢者に、里帰り一時帰国を助成し、敗戦から立ち上がりつつある日本の復興ぶりを見てもらい、出身地故郷の人々との交流を深め、帰国後は、貴重な本人の移住歴史の上に祖国日本の復興力と日本の良さを二世・三世に伝えて、ブラジルと日本の相互理解と友好親善を深めつつ幸せな余生を送っていただくよう、南米移住高齢者招へい事業を実施した。

この事業で、1984年(昭和59年)、1985年(昭和60年)の2カ年に14人、1988年(昭和63年)の瀬戸大橋架橋祝賀記念に20人計34人の方を招へいした。

移住後は、毎日祖国、故郷のことを思い、粒々辛苦懸命に頑張り、南米の大地に日系人としての立派な根を張り大成しての里帰り。その喜びは格別のようなものである。

東京に到着、香川県東京事務所、日本海外移住家族会連合会のお世話で、皇居を拝観したほか、靖国神社にも参拝し、東京見物をして、郷土香川県に帰って来る。

香川県では、待ちかまえていた留守家族をはじめ、県関係者の出迎えを受けて、香川県庁へ。ここで、香川県知事に帰国のごあいさつ、知事より、心温まるお迎えの言葉を受けて感激一入。直ちに留守家族とともに生家に落ち付く。

香川県では、栗林公園で、香川県知事始め県有志各位による心のこもった温かい歓迎会の後、県内各地の観光案内を受けて、生家に落ち付き、親戚知人友人と旧交を温め、思う存分に語り合いブラジルの事を紹介し、そして、故郷を離れてからの故郷のことを知り得ると云う最高の時を過した。

約1ヶ月程度の滞在であ



南米移住高齢者を招待(四国村)

ったが、各帰国者は祖国故郷に深い印象を持ち、今までにない満足感を味わいつつ、ブラジルに帰って行った。

ブラジルに帰国後は、ブラジルで活躍する子や孫、親族一同、知人、友人に、日本滞在の貴重な体験と喜びを語り伝えた。

このことが、これからブラジル社会の立派な中堅となって活躍する二世、三世の奮発努力に大いに役立ったことと思う。

70年と云う貴重な人生の中で、常に祖国を想い、なつかしい故郷を偲び乍ら過ごした中で、香川県移住高齢者招へい事業で、現実に訪問帰国出来た喜びは、また格別のようであった。

南米移住高齢者をお迎えして 昭和59年 香川県農政課

本県出身南米移住者の中で、年齢が70歳以上で、移住後30年以上経過して、その間帰国経験のなかった方を郷土に招へいし、相互理解と友好ならびに親善協調関係を深め、南米で活躍される香川県人の一層の発展を高めるため、この事業を実施しました。今年、ブラジルから4人、アルゼンチンから2人の計6人の方々が、1984年(昭和59年)3月20日16時20分、日航機で成田空港に到着され、約1ヶ月ご滞在されて、4月20日、成田発で帰国されました。ここにその状況をお知らせします。

香川県南米移住高齢者郷土招へい歓迎会次第

1984年(昭和59年)4月11日(水) 栗林公園内商工奨励館

10:30 受付

11:00 開会

開会のことば

あいさつ

香川県知事

香川県議会議長

帰国者の紹介

香川県知事記念品贈呈

香川県議会議長記念品贈呈

帰国者代表あいさつ

11:30 歓迎パーティー

乾杯

懇談

香川県議会訪伯議員団代表のことば

香川県議会経済委員長のことば

南米移住高齢者のことば

出身市町長代表のことば

万歳三唱

12:40 閉会のあいさつ

12:50 記念撮影

13:00 栗林公園案内

13:40 掬月亭 抹茶接待

15:00 解散

○一行非常にお元気で成田空港に到着

1984年(昭和59年)3月20日、日航61便がほとんど定刻に到着、ツニブラ旅行社池沢代表取締役の協力で、早々に荷物の通関も終わり、一行極めてお元気で、県や、留守家族の出迎者の前に集まる。高齢者とは思えない若さを感じられ、「半世紀ぶりに日本に帰って来ました」との喜びが隠しきれず、体中から表れていた。

東京の「讃岐会館」。移住された方々が日本で最初に宿泊する近代的な宿舎は南米でも有名。ここで第一夜を過ごす。旅の疲れも加わって心ゆくまで熟睡された様子。

○東京都内見学

3月21日、快晴。朝のあいさつもさわやか。東京讃岐会館の屋上より遥かに富士山がくっきりと望める。「秀麗富士」をしばらく眺めて、自分は日本の土を踏んでおるのだとの実感を深く味ったとのこと。

9時、讃岐会館を出発して、皇居、霞ヶ関の官庁街、靖国神社、新宿三井ビル、泉岳寺と見学する。皇居内では窓明館、富士見やぐら、宮内庁、宮殿等々を見学。日本の象徴として仰がれる天皇陛下のおられる皇居を有難く拝観して、遠く南米の日系人として、子々孫々まで、頑張ろうと、心の中に誓っておられる。

靖国神社に参拝、日本国のために戦って戦死された柱の方々の霊に拍手を打ち頭を深く下げて去り難い。宝物館では、過去の戦時の貴重な証拠品が陳列され、感慨無量。

新宿三井ビル、国際協力事業団移住本部が46階にある。ここより大東京市街を眺め、戦災の無一物から今日の発展の姿を見学していただき、大石良雄をはじめ47士の義士の墓に詣でて東京見学を終わりましたが、この東京見学には、全国家族会連合会の平田事務局長さんの格別のご協力のあったことを御一行とともに感謝して止みません。

○郷里高松に到着

3月22日、午後3時54分、県、留守家族、友人知人が首を長くして待ち受ける高松国鉄棧橋に到着する。下船と同時に、待ち構えていた出迎者に取り囲まれ、身動き出来ない有様。棧橋で歓迎式を終えてそれぞれに郷に向う。次来日程に従って、中讃、東讃、西讃地区の観光や、讃岐より出た空海入定1150年を記念しての「空海」の映画を観賞いたしました。

特に、4月11日の歓迎会には、桜の花の咲きそめた天下の名園栗林公園において、香川県知事、南米訪問県議会議員をはじめ、移住関係者が参加して、別紙次第のとおり有意義に開催しました。歓迎会のあと、栗林公園の散策を行いました。

4月10日の金刀比羅宮参拝の折、桜花祭の見学や、3月28日の県植樹祭に参加していただきました。



香川県南米移住高齢者郷土招へい歓迎記念 於栗林公園＝昭和59年4月11日